

## 瀬戸SOLAN小学校第1学年・学年通信



# キーボードのお知らせ

1年生の保護者の皆様

お世話になっております。瀬戸 SOLAN 小学校の丹羽です。

本校ではローマ字を習い始める3年生で、iPad 用のキーボードを購入していただく予定ですが、現在 1 年生のご家庭ですでにキーボードを購入されていたり、どうしたらよいか問合せをいただいていたたりしております。購入される場合は、次の点をよろしくお願いします。

### 【注意事項】

購入の際、SmartConnect 接続または Lightning 接続の iPad 用キーボードの購入をお願いいたします。Bluetooth 接続は混信する関係で禁止させていただきます。

推奨機種を挙げますので、購入の際の参考にさせていただければと思います。

【純正】iPad（第9世代）用 Smart Keyboard - 日本語（JIS）  
（SmartConnect 接続）

<https://www.apple.com/jp/shop/product/MX3L2J/A/ipad%E7%AC%AC9%E4%B8%96%E4%BB%A3%E7%94%A8smart-keyboard-%E6%97%A5%E6%9C%AC%E8%AA%9Ejis>

※おしゃれで純正なので安心してお使いいただけます。落下時の衝撃吸

収能力はあまり高くないため、気をつけてお使いください。

【サードパーティ】iPad 用キーボード SKB-IP3BK (Lightning 接続)

[https://www.amazon.co.jp/gp/product/B0892FTM68/ref=cr\\_t\\_ewc\\_title\\_oth\\_1?ie=UTF8&psc=1&smid=AN1VRQENFRJN5](https://www.amazon.co.jp/gp/product/B0892FTM68/ref=cr_t_ewc_title_oth_1?ie=UTF8&psc=1&smid=AN1VRQENFRJN5)

※いわゆる外付けの有線キーボードで最も廉価です。今お持ちの丈夫なケースを iPad に装着したままキーボードをお使いいただけますが持ち運びには不適で保管もかさばります。キーボードになれるまでの練習用という位置づけになります。

【サードパーティ】SmartConnect Rugged Combo3 iK1054EC (SmartConnect 接続)

[https://www.amazon.co.jp/gp/product/B0988YFKHM/ref=ox\\_sc\\_act\\_title\\_1?smid=AN1VRQENFRJN5&psc=1](https://www.amazon.co.jp/gp/product/B0988YFKHM/ref=ox_sc_act_title_1?smid=AN1VRQENFRJN5&psc=1)

※衝撃吸収力の高いカバーとキーボードがセットになった商品です。落下に強く、ApplePencil をとめることができます。キーボードの取り外しができず重いことが難点です。

3年生開始までに購入いただければと思います。どうぞよろしく願います。

LCA Group 瀬戸 SOLAN 小学校

丹羽 敦 NIWA,Atsushianiwa@seto-solan.ed.jp

〒489-0054 愛知県瀬戸市道泉町町 76-1

Tel: 0561-56-2345

<https://seto-solan.ed.jp>

# 天才の育て方

バイオリン協奏曲の中で、最も好きな一曲があります。

チャイコフスキーのバイオリンコンチェルトです。(シベリウスも捨てが

たいですが、やはり1位はチャイコフスキーです。)

悠々と響き渡る旋律、力強くて華麗なカデンツァ、華やかで盛大なフィナーレ、何度聞いても素晴らしい曲です。

高校生の頃、先輩方がこの曲を演奏する様子をビデオで見て、一目で虜(とりこ)になりました。

しかし、当然のごとく超がつくほどの難曲です。

作曲された当初は、「こんな難しい曲を誰が弾けるんだ」と批判され、世界でも有数のバイオリニストにすら「演奏不可能」として断られたぐらいの曲でした。

今ではたくさん CD や音源が出ていますが、中でも私のお気に入りには五嶋みどりさんの演奏です。

「天才」と名高い五嶋みどりさん。

実は、以前勤めていた私立学校に来てくださったことがあります。

世界でも非常に有名なバイオリニストの一人です。

私の友人で、プロとして演奏を続けている人(名フィルの副コンマス)がいますが、その人も「五嶋みどりのCDは別格だ。」と絶賛していました。

では、その五嶋みどりさんは小さい頃、どんな子供だったのでしょうか。

実は五嶋みどりのお母さん(五嶋節氏)が、1冊の本を出しています。

「天才の育て方」という本です。

そこに、幼少のころのみどりさんの様子が書かれていました。

みどりは、かなり不器用な子供で、ちょっと指の動きが難しくなると、何度練習を繰り返してもうまくいかないときが数えきれない位ありました。

現在の姿とは程遠い感じでした。

さらに節さんは次のようにつづけました。

逆にそういう箇所を、簡単にさらりとやっけてのける子どももいます。実際に、そういう子どもに何人か出逢い、こういうセンスをみどりも身に付けてくれていたらいいのになと思ったものです。

## 「天才」の育て方 五嶋 節



講談社現代新書  
1890

つまり、「生まれつきの優れた才能」をみどりさんには感じなかったという事なのです。

そして、「そんなセンスを身に付けてくれればな」とも思っていたと。

ところが、この「簡単にさらりとやってのけられるセンス」について、節さんは次第に考え方が変わっていったそうです。

ところが、そういう子どもにかぎって、練習を繰り返さないことが多い。さらりとやってのけられるものですから、それで、できたと思ってしまう。いくら私が、今のところをもう一度と言っても、繰り返そうとしない。一度できたら、あとはいいかげんにやる。きちんとやりなさいというと、いやいやする。そして、さらりとやってのける。

しかし、こういう子どもは、さらに難しい曲に挑戦するようになってさらりとはできなくなったときに、大きな壁にぶつかってしまうことが多いのです。それまで、苦勞せずに難なく弾きこなしてきたものですから、いったん弾けなくなった時の精神的ショックも大きい。それを弾けるようになる苦勞の仕方も努力の仕方も分からない。ショックから立ち直る方法もわからない。

つまりは、「さらりとやってのける」経験よりも、「失敗したり」「なかなかできない」経験こそが大切であると説いているのです。

私はこの部分を読んだだけで「この本を買ってよかった」と思いました。

「すらすらできる」それはそれで素晴らしい事ですが、もっと大切なのは「失敗や間違いの経験」をどう生かせるかだと思っているからです。

そして、その失敗の価値を学ぶためには、「あえて難しい壁や課題に挑戦する場」も必要なのだと思います。

これは、医学、心理学、行動分析学など様々な専門分野の方も言うておられることです。出来ることばかりに挑戦するのではなく、あえて失敗や挫折を経験する場を作ることです。

子どもたちが歩いている道の上に、そっと小石をいくつか置いておくようなイメージです。

柔道には、受け身の訓練があります。

登山には、滑落訓練があります。

学習も、同じだと思うのです。

これから先も多くの失敗を経験していく中で、「失敗の練習」をすることは欠くことができません。

その練習の中で、「起き上がり方」を学び、再度チャレンジする「チャレンジ精神」をも身につけることができたならば・・・。

と、このようなことをよく考えています。

ですから、今年もわざと小石を 1 年間の中で置いていこうと思っています。

たとえば、かるた教材がそうです。

かるたは、必ず「勝ち」と「負け」に分かれます。

そして、この「負け」をおよそ100回経験した時に、驚くほどの効果が出るということを記した報告があります。

精神的に逞しくなり、負けや失敗に対して極度に怒ったり、心を倒してしまったりすることがなくなったと書いてありました。

今後も、例えば勉強の中で子どもたちはおそらく何度も間違い、転ぶことと思います。

その際、私にまずできることは、いざ間違えた時の「声かけ」です。

「良い間違いだなあ。」

「この問題のおかげで君は3倍賢くなりましたね。」

「これは宝物の×だから、決して消さないでくださいね。」

「たくさん失敗した方が絶対に上手になります。」

「間違っ、失敗して、賢くなっていくんです。それがお勉強です。」

先日の通信でもお伝えしたように、間違えた時にかかる言葉を収集し、良いのが見つければすぐにストックして使えるようにしてあります。

まちがえた時失敗した時の対応こそが、子どもたちの失敗に対する考え方や価値観を決めると思っているからです。

そして、計算をじっくり行う子であったり、何度も何度も間違っ、出来るようになっていく子には、私はある種の大きな「才能」を感じます。

間違っ、間違っ、ようやく丸をもらえる。

失敗して、失敗して、ついに上手にできるようになる。

その過程で、幾度も頭と心が鍛えられたことでしょう。

そんな時は、ことさら強く褒めるようにしています。

こうした経験をくぐった子が、何かの拍子にぐんと力を伸ばす姿を幾度となく見てきたからです。

小学生という発達段階は、植物で言うならば芽が出て本葉が吹き出し、これからまさに幹がグーンと伸びていく時期です。

その中で言えば、「間違い」や「失敗」の経験は、根を伸ばしているのと同じです。

間違った時も、その答えを消すのではなく、きちんとノートに残しておくことを伝え続けています。

これも、間違いを自分の糧として成長していくための、大切な学習です。

太く強く根を張った幹が、立派な木へと成長するように、しっかりした根を張る経験を積んでほしいと思っています。

前述の五嶋節さんも、次の様に言っています。

どんなジャンルでも、大人になって「一流」と認められている人は、子供のときにそういう苦労をたくさん積み重ねたのではないかと私は思います。

どんどん間違え、どんどん失敗し、これからも大いに成長して行ってほしいと願っています。（渡辺道治）

（ご意見ご感想などいつでも気軽にお寄せください。）

↓↓↓

[1 学年通信「コスモスハーモニー」読者ページ \(google.com\)](#)